

帰国隊員／青年支援プロジェクト 実施報告書

ラオスにおける寄生虫症対策～自己服薬による駆虫効果の検討～

12-2 ラオス 看護師

山本 加奈子

I. 背景

ラオス人民民主共和国(以下ラオスとする)の全国調査(2002)では、回虫、鞭虫、鉤虫に代表される土壌伝播性の腸管寄生虫症(以下寄生虫症とする)の感染率は全国平均 61.9%、北部においては 90%以上と報告されている。これらの対策として、薬による駆虫と再感染防止対策が平行して行われる必要があるが、対策の効果が上がらず感染率は横這いの現状である。対策の効果が上がらない原因として、効果的な駆虫方法が確立されていないこと、ラオスの日常生活の中での感染源・経路が特定されていないことが考えられる。

今回は、この効果的な治療に焦点を当てている。寄生虫症の治療には、MBZ100mg6回(朝晩2回、3日間連日)投与が本邦標準である。しかし、ラオスを始めとする開発途上国では、服薬に関する意識が低いいため直接監視下での服薬が理想とされるためMBZ500mgの1回投与が行われるのが一般的である。我々はこのMBZ500mg1回投与の駆虫効果に疑問を持ち、2003年より縦断的な調査を開始し、①MBZ500mg1回投与は、回虫に対しては効果が認められるが、鞭虫、鉤虫には効果が弱い、②製品の違いにより品質・駆虫効果に差はない、③MBZ500mg1回を4ヶ月毎3回の定期的な投薬により、回虫・鉤虫に対して駆虫効果が得られる、④MBZ100mg朝晩2回3日間連日投与により、回虫・鞭虫・鉤虫すべてに駆虫効果が得られる、という結果を得た。今回は、この最も効果的であると思われる投薬方法を確実に、低コストで実行可能な実践方法について検討することを目的とする。

II. 研究目的

寄生虫症の感染率が高く報告されているラオスの北部において、現地で効果的で、実行可能な駆虫方法を明らかにすることを目的とする。

III. 調査の流れ

渡航前計画の確認(於:関西医科大学公衆衛生教室):平成21年2月26・27日

ラオス渡航期間:平成21年2月28日から平成21年3月28日

月日	具体的内容
2月26～27日	青森→大阪へ移動 研究計画の確認・指導を受ける
2月28～3月1日	関空→バンコク(泊)→ノンカイ→ビエンチャン→ルアンパバーン
3月2～6日	調査準備、調査対象地域の選択、調査依頼
3月9～13日	各学校に調査協力の依頼、検便容器の配布
3月16～19日	便回収、検便
3月20～26日	投薬、服薬状況についての聞き取り調査
3月27日	午前:調査まとめ 午後:ルアンパバーン発
3月28日	バンコク経由関空着
3月29日	大阪→青森
4月20～25日	後検便(現地スタッフに依頼済み)

IV. 調査方法

調査は、ラオス国北部のルアンパバーン県の市街地から南西約 60kmにあるナン郡の 7 小学校において行った。調査前に検便による虫卵陽性率を把握した上で投薬を行う。使用薬剤は、ラオス第 3 工場製のメベンダゾール(MBZ)100mg とし、投薬は、以下の 4 群にわけ、ケースコントロールスタディーとする。

A群: 初回説明のみの自己服薬群(100mg1日2回3日間。初回のみ直接監視下で行い服薬方法の説明を加える:3校)

B群: 服薬確認カードによる自己服薬群(100mg1日2回3日間。初回のみ直接観察下で行い、残り5錠は服薬カードを手渡し、親の協力を得るように説明:2校)

C群: 直接監視下での服薬群(100mg1日2回3日間:1校)

D群: 直接監視下での服薬群(200mg3日間:1校)

投薬後 3 週間目に後検便を行い、駆虫効果の評価を行う。(後検便は 4 月 20～25 日に後検便を行う予定である。)

前後に検便を行い陰転率の比較と、服薬状況に関する聞き取り調査により駆虫効果の評価する。

V. 調査結果

調査前の感染率は、学校により多少ばらつきがあったが 78～100%の陽性率であった。駆虫効果については、4 月 20 日以降に行うデータが届き次第、分析し、報告する。

学童に対する聞き取り調査の結果は、ほとんどの学童がきちんと服薬していた。中には、「飲み忘れたこともあったが、全部きちんと飲んだ」と言っているものもいたが、捨てたり、他人に譲ったりしているものはいなかった。

また、教員は、駆虫薬を学童に飲ませることについて、「子どもたちがきちんと飲まなければ困る

から教員で管理し、6回きちんと飲ませる」と投薬への責任意識は高いと感じた。さらにいずれの学校も、1日2回3日間飲ませることについて、負担に感じている教員はおらず、すべての学校の教員が、「それほど時間かからないから、全部教員が飲ませることは可能」と答えた。

今回の大まかな調査結果からも、ラオスでは、最も駆虫効果が高いメベンダゾール 100mg の6回投与が、教員の協力を得ることで可能であろう。また、自己服薬については、後検便の結果が出てから、細かく分析・報告する。

VI. 今後の計画

後検便のデータが届き次第、駆虫効果を分析し、論文を作成する。また、学会、学会誌などでも発表をしていく。

また、研究の大きな目的である、再感染予防について、引き続き調査を行っていく。

VII. 収支報告

支出は、227,388円であり、総予算200,000円を、27,388円超過した。なお、超過は、自己負担とする(詳細については別紙参照)。